

第 717 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2026 年 10 月 10 日(土) 午後 2 時 00 分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	専門医共通講習（医療経済）1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要（60 分）



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※ 日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※ 建物の外観：ガラスカーテンウォール

※ 看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：大石 公彦（東京慈恵会医科大学小児科主任教授）

主幹校：東京慈恵会医科大学小児科 担当：小林 正久

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※ 講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 717 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 日本大学医学部小児科 岡橋 彩》

一般演題 (1) 14:00 – 14:50 座長 石井 和嘉子 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

1) 日齢 9 に治療を開始した新生児マススクリーニング陽性の脊髄性筋萎縮症

○日原 勇貴、水野 朋子、森山 剣光、中島 陽二

(東京科学大学病院 小児科)

0 か月女児。脊髄性筋萎縮症 (SMA) の新生児マススクリーニング陽性となり、*SMN1* 遺伝子 exon 7 および 8 の欠失、*SMN1* 遺伝子 2 コピーから確定診断した。発症前と判断し、日齢 9 にヌシネルセンを髄注したが、鎮静薬投与後に呼吸抑制、高二酸化炭素血症および無気肺を認めた。日齢 22 にオナセムノゲンアベパルボベクを投与した。SMA は発症前であっても潜在的な呼吸機能低下を有する可能性があり、注意を要する。

2) 有熱時焦点発作を契機に診断されたもやもや病の 2 歳児例

○藤田 由見¹⁾、角皆 季樹¹⁾、伊藤 研¹⁾、高見 遥¹⁾、岡部 史郎¹⁾、坂口 晴英¹⁾、新村 南¹⁾、
廣津 竜也²⁾、大石 公彦¹⁾

(¹⁾ 東京慈恵会医科大学附属病院 小児科、²⁾ 同 脳神経外科)

2 歳女児。発熱 1 日目に左上肢優位の焦点性発作を認め、複雑型熱性発作として経過観察された。発熱 3 日目に同様の発作を契機に、左不全片麻痺と構音障害とを認めた。頭部 MRI で急性期および陳旧性脳梗塞、MRA で両側中大脳動脈狭窄と異常血管網とを認め、もやもや病と診断した。本症は発熱や脱水が虚血発作の契機となりえる。熱性発作は、頻繁に遭遇するが、あくまで除外診断である。焦点性発作では本症の鑑別を要すると考え報告する。

3) 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH) 様尿所見を呈し急速な自然補正を認めた乳児水中毒の 1 例

○中野 英太郎¹⁾、高見 俊也¹⁾、村上 美佐子¹⁾、鈴木 崇¹⁾、渡邊 駿¹⁾、千田 理絵¹⁾、税所 純也¹⁾、
堤 範音¹⁾、柏木 保代²⁾、山中 岳²⁾

(¹⁾ 東京医科大学 八王子医療センター 小児科、²⁾ 東京医科大学病院 小児科・思春期科)

1 才男児。けいれん、意識障害で救急搬送され、血清 Na 値 118mEq/L から低 Na 血症と診断された。病歴からは水中毒が疑われたが尿所見からは SIADH も考慮し、症候性低 Na 血症に対し 3% 食塩水による補正を開始した。Na 値の急峻な上昇を認め開始 3 時間で補正を中止したが、その後も自然補正が続いた。水中毒でも SIADH 様尿所見を呈し、治療中に急速な自然補正を来す可能性があり治療・経過観察には注意を要する。

4) 10 歳時にアームスパンの測定を契機に遅発性脊椎骨端骨異形成症と診断された 1 例

○末永 光樹、藤井 雅行、津浦 海里、服部 花穂、佐藤 武志、鳴海 覚志

(慶應義塾大学 小児科)

10 歳男児。学校健診で 6 歳ごろからの成長率低下と低身長 (−3.2 SD) を指摘され当科を受診した。血液検査と頭部 MRI 検査で異常を認めなかった。アームスパン／身長比が 1.04 (+2.0 SD) と躯幹短縮型低身長であったことから、骨系統疾患を疑った。全身骨 X 線検査で腰椎椎体の扁平化を認め、遅発性脊椎骨端骨異形成症と診断した。学童期の成長障害においてアームスパンの測定は、遅発性の成長障害を呈する骨系統疾患の診断契機となり得る。

5) 詳細な病歴聴取を契機に腸骨骨髓炎の診断に至ったメチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) 菌血症の小児例

○上田 悠加^{1,2)}、黒田 唯夏^{2,3)}、波多野 智紀^{1,2)}、伊東 藍¹⁾、中尾 寛¹⁾、窪田 満¹⁾、庄司 健介^{2,3)}

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 総合診療部、²⁾ 同 教育研修センター、³⁾ 同 感染症科)

11 歳男児。左大腿痛と発熱で受診し、血液培養陽性のため入院した。大腿部 MRI 検査では異常なく、当初は感染源不明の MSSA 菌血症として抗菌薬治療を実施した。その後の詳細な病歴聴取にて、腸骨稜の痛みから症状が始まったことが判明し、入院 27 日目に撮像範囲を骨盤部まで拡大して MRI 検査を再検し、左腸骨骨髓炎の診断に至った。骨髓炎の診断は、詳細な病歴聴取を元に適切な撮像範囲での画像検査が必要である。

一般演題 (2) 14:50 – 15:30 座長 鮎澤 衛

(日本大学医学部小児科学系小児科学分野・神奈川工科大学健康医療科学部)

6) 出生前後の染色体検査結果の乖離を契機に診断に至った Pallister-Killian 症候群

○山田 大薫、呉 英俊、中島 一紗、小峯 柊野、郡司 優希、向井 千尋、佐藤 優希、今泉 隆行、土方 みどり、不破 一将、長野 伸彦、岡橋 彩、森岡 一郎

(日本大学医学部小児科学系 小児科学分野)

日齢 0 男児。胎児横隔膜ヘルニアのため、羊水 G 分染法を行い 47, XY, +mar とマーカー染色体を認めた。出生後の児血では正常核型であり、結果が乖離したため児血を多細胞で再検した。47, XY, +mar (1/60) であり、FISH 解析で 12 番染色体短腕の同腕染色体を確認し、Pallister-Killian 症候群と診断した。出生前後で染色体検査結果が異なる場合、低頻度モザイクを考慮した検証が必要である。

7) 胸膜炎を合併し診断・病勢評価に難渋した不全型川崎病の 1 例

○松岡 峻也、小嶋 まゆき、坪谷 ひなの、瀧 栄志郎、松本 孝子、坂口 慶太

(東京都立東部地域病院 小児科)

1 歳女児。マリ共和国出身。発熱 5 日目に受診し、細菌性肺炎・胸膜炎として抗菌薬治療を開始したが改善せず、第 7 病日に不全型川崎病と診断した。第 33 病日の退院後も発熱と炎症反応上昇を繰り返し、第 50 病日の胸部 CT 検査で感染性胸膜炎・膿胸と診断し、抗菌薬投与により改善した。川崎病治療後の炎症反応再上昇時には、病勢再燃のみならず感染性病変の併存や顕在化を念頭に再評価することが重要である。

8) 運動中の心室細動を契機に不整脈原性心筋症が疑われた 1 例

○中川 一磨、中村 甫、酒井 瞭、矢野 瑞貴、前田 昂大、小澤 由衣、大森 紹玄、白神 一博、益田 瞳、犬塚 亮

(東京大学医学部附属病院 小児科)

14 歳男子。既往なく、学校健診で異常は指摘されていなかった。運動中に心室細動、心停止を起こし蘇生された。心機能改善したが蘇生後脳症のため在宅医療へ移行を進めた。父方祖父に若年の突然死歴があり、父親は本件を受けて心臓 MRI を施行され、不整脈原性心筋症の疑いで現在遺伝子検査を進めている。本症例は致死性不整脈が重要な鑑別であることのみならず、遺伝子検査を含めた詳細な家族精査が不可欠であることを示す。

9) メチルプレドニゾロンパルス療法および免疫グロブリン静注療法により良好な転帰を得た Stevens-Johnson syndrome の3例

○寺岡 明日香¹⁾、柏木 項介²⁾、幸治 奏²⁾、片山 翼²⁾、金井 ひなた²⁾、濱原 彩加²⁾、戸田 方紀²⁾、大石 賢治²⁾、宮野 洋希²⁾、宮田 恵理²⁾、五十嵐 鮎子²⁾、鈴木 恭子²⁾、大友 義之²⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、²⁾ 同 小児科)

7歳、10歳男児および14歳女子。アセトアミノフェン(1例)、Mycoplasma pneumoniae感染(2例)によるStevens-Johnson syndromeを発症し、全例に重篤な粘膜病変を認めた。プレドニゾロン不応のため、メチルプレドニゾロンパルス療法および免疫グロブリン静注療法を施行し症状改善を得た。全例で重篤な眼科的後遺症なく経過している。重症例では早期治療強化が重要である。

* * 休 憩 15:30 - 15:40 * *

感染症だより 15:40 - 15:55 (講演: 15分)

講師 北村 則子 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症疫学センター)

共催セミナー 15:55 - 16:35 (講演: 40分)

「ライゾーム病の新生児スクリーニング～こども達に最適な医療を届けるために～」

座長 小須賀 基通 (国立成育医療研究センター 遺伝診療センター 遺伝診療科)

講師 小林 正久 (東京慈恵会医科大学小児科)

ライゾーム病の治療法の開発は進んでおり、多くのライゾーム病が治療可能となった。しかし、そのような疾患の中には発症後診断では治療効果が乏しくなる疾患があり、全国でライゾーム病の新生児スクリーニングが普及してきている。本講演では、東京都でのライゾーム病の新生児スクリーニングの現状と陽性者の対応、および東京都で対象疾患となっているポンペ病とファブリー病の新しい治療法について概説する。

共催: アミカス・セラピューティクス株式会社

* * 休 憩 16:35 - 16:45 * *

「正当な評価につなげるための診療報酬入門」

座長 内山 浩志 (東京慈恵会医科大学小児科)

講師 窪田 満 (国立成育医療研究センター総合診療部)

私たちは何によって自分の診療内容を評価されているのだろうか。その一つが診療報酬であろう。そうであれば、正当に評価を受けるための努力は悪ではない。この講演では、診療報酬を正当に受けるための病名の付け方、検査の出し方、症状詳記の書き方などを、特に若手・中堅の小児科医の皆さんに向けて具体的に説明する。そして、令和8年度診療報酬改定のポイントを踏まえて、新しい診療報酬を得るための活動に関して共有したい。

◆ 2026 年度 講話会予定 (会場開催のみ) ◆

■ 講話会予定

講話会	日 程	会 場	備 考
第 718 回	2026 年 12 月 12 日 (土)	アットビジネスセンター 八重洲通	締め切りました
第 719 回	2027 年 1 月 9 日 (土)		※演題締切 2026 年 11 月 20 日
第 720 回	2027 年 2 月 13 日 (土)		※演題締切 2026 年 12 月 20 日
第 721 回	2027 年 3 月 13 日 (土)		※演題締切 2027 年 1 月 20 日

* 4, 5, 8, 11 月は休会

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。
その場合事務局よりご連絡致します。

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpedstokyo.com/>



■ 第 51 回東日本小児科学会のご案内

会 長: 獨協医科大学医学部小児科学 主任教授 白石秀明

大会テーマ: 子どもを慈しみ育てる社会へ

日 程: 令和 8 年 11 月 23 日 (月・祝)

会 場: ホテルマイステイズ宇都宮 (ハイブリッド開催)

U R L: <https://square.umin.ac.jp/ejps51/>

参加登録期間: 2026 年 9 月 10 日 (木) ~ 11 月 23 日 (月・祝)



■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を 2026 年度は年間 6 回の開催が予定されております。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2026 年 6 月 7 日（日）	東京慈恵会医科大学	終了しました
2026 年 7 月 18 日（土）	慶應義塾大学	終了しました
2026 年 9 月 5 日（土）	帝京大学	終了しました
2026 年 12 月 6 日（日）	日本大学	締め切りました
2027 年 1 月 24 日（日）	東京大学	2026 年 10 月 25 日（日）締切
2027 年 2 月 7 日（日）	国立成育医療研究センター	2026 年 10 月初旬 募集開始

募集人数：12 名 ※ 最少催行人数 8 名

申し込み先：日本小児科学会 HP ※詳細についても 小児科学会 HP にてご確認ください

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2026 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

2026 年度会費納入のお知らせを 2026 年 4 月 1 日以降メールおよびホームページにてご案内いたしました。2026 年度会費及び 2025 年度・2024 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただけますようお願いいたします。

* 3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

* 講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページの役員紹介（名誉会員）の欄から推薦方法のご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】 東京慈恵会医科大学小児科

【運営事務局】 合同会社新生児小児研究会

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

